

新刊 園果

令和5年度【第5号】
2023年8月1日発行
八頭町役場商工観光室
(0858-72-0144)

やずうさぎ
プザイ外
発信中



—八頭町地域おこし協力隊活動の現場から—



Instagram
yazu_life
更新中

地元の恵みを味わう 手打ちうどん祭り

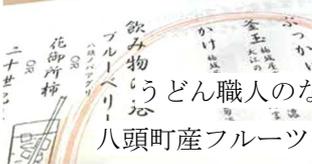
八頭町の船岡地区では小麦を栽培しており、今年で4年目を迎えます。まだまだ認知度を広げる段階ではありますが、絹ごしの生小麦粉として販売されています。

農作業が一段落した7月、国産小麦PRと地域交流促進を目的に、うどんと洋菓子の職人お二方をお招きし、八頭町産小麦を使用した手打ちうどんや洋菓子を振る舞うイベントを開催しました。2日間の開催は日本海新聞にも取り上げていただき、大成功に終わりました。千葉県からお越しいただいたお二人とは、2ヶ月に及ぶ準備期間を経て、八頭町観光や地元食材の買い出しを共にし、八頭町の新鮮なフルーツや野菜にも感動され、地元生産者との交流を楽しんでいただきました。

また、彼ら自身の技術を披露するだけでなく、八頭町のあたたかい雰囲気に触れることで、

職人としての原点に立ち返ることができたと、感想をいただきました。この素晴らしい縁を通じ、私も八頭町の魅力を再び強く感じるようになりました。

真柳加奈子



職人のなかむらたけるさん (写真右)
八頭町産フルーツを使った限定ドリンク (写真左)

初めてのりんご

4月の終わりから期間限定ではありますが、フルーツ観光園でりんごの受粉や摘果、袋掛け、作業の合間のストレッチ等のお手伝いさせていただいています。りんごは、初めは5つの花が咲き、そこに花粉をつけていきます。受粉がうまくいけばすべてに実がつくので、5つも実ができますが、そんなに多くも栄養を取り合うため大きくも美味しくもならないそうです。この実をひとつにする作業を摘果と言います。この作業がとても大変で何万もの実を落とさなければいけません。その落ちてきたりんごに当たると結構痛いのです。また天敵もいます。カミキリムシです。木屑が葉に落ちていると、たいいていやつがいます。注意深く枝を観察。りんごが好きなのは人も虫も一緒だなと思いつつカミキリムシの潜む木の穴にスプレーをかけて駆除します。

岡田悠作



かわいいりんご



摘果作業

タガメ大捜索！

タガメという水生昆虫をご存知でしょうか？ 田んぼやたぬ池に生息する6cm前後になる大きな昆虫です。ドジョウやカエル、果てはへびまで捕食するまさに水田生態系の王者です。しかしながら水辺環境の悪化などから全国で数を減らし、私の地元福岡県では50年前の発見を最後に見つかっていません。鳥取県でも20年ほど前まではしばしば見かけていたという話を聞いていますが、今では絶滅の危機にあり、明確な生息地は東部だと数カ所しか存在しません。

八頭町でも現在確認されている生息地はないことになっていますが、ちらほらタガメの目撃情報を聞くことがあります。健全な自然環境とエサになる多くの生き物がなければ生きていけないタガメ。まさに豊かな水田地帯を象徴する生き物です。

もしかしたら八頭町のどこかには、まだ生き残っている場所があるのかも知れません。6月以降、作業の合間を縫って探し歩いていますが、まだ八頭町内で見つけたことがありません。もし見かけることがあったら教えていただけると幸いです！

小宮春平



タガメ
6cm前後で圧倒的に大きい。



コオイムシ
2cm弱。オスは背中に卵を背負う。



タイコウチ
体長は4cm弱でタガメより細い

タガメとよく似た水生昆虫たち

○担当課より

・地域おこし協力隊メンバーの活躍が、NHK「いろどり」や日本海新聞等、マスコミに取り上げられています。ご存じでしょうか？ 今後もメンバーの活動にご理解とご協力をお願いします。（植田）

○協力隊からのお知らせ

・Instagram【 yazu_life 】で八頭の魅力を発信しています！（表紙QRコード）。

八頭町役場ホームページからカラーでご覧いただけます。